

# 冬の地震に備えて

冬になると雪が積もり、寒さも厳しくなる札幌市。地震災害への備えは、夏と同じというわけにはいきません。寒さをしのぐための準備など、被害を最小限に抑えるための冬の防災対策を考えてみましょう。

【お問い合わせ先】 区総務企画課地域安全担当 ☎861-2405

## 冬に地震が起こったら

札幌市はひと冬に6mもの雪が積もり、寒いときは氷点下10度以下にもなる積雪寒冷都市です。冬に災害が起こった場合、夏よりも被害が拡大する恐れがあります。札幌市に最大級の被害をもたらすとされる「月寒断層」による地震の発生を想定して、夏との違いを見てみましょう。



### 【午前5時、震度6強の地震発生】

就寝中の人もいる明け方に、はわないと動くことができないほどの大きな地震が発生した場合、札幌市では右の表のような被害が想定されています。冬は夏に比べて、①死者②避難者③焼失建物の数が大幅に増加していることが分かります。それはなぜでしょうか。

(月寒断層による地震での想定被害の比較)

夏季		冬季
1,789人	死者	8,234人
30,623人	重軽傷者	34,395人
81,000人	避難者※1	202,000人
160棟	焼失建物	560棟

※1 発災当日の数

## 夏との違いはなぜ？

### ①死者の増加

夏季 1,789人



冬季 8,234人

冬の死者数8,234人のうち、6,184人(※2)は生き埋めによる凍死者の想定人数です。救助を待つ時間が夏と同じでも、寒さで体力が持たなくなるため、死者数の増加につながります。

※2 要救助者を2時間以内に救助できないと凍死するとした場合の数

### ②避難者の増加

夏季 81,000人



冬季 202,000人

建物の倒壊によるものに加え、停電で暖房器具が使えなくなるために、暖を求めて避難する人が増えます。電力の復旧には、最大6日かかると想定されています。

### ③焼失建物の増加

夏季 160棟



冬季 560棟

冬になると暖房器具などの火気を使用するため、夏よりも火災の危険性が高まります。また、消火栓が雪に埋もれて、消火活動が遅れることによる焼失も考えられます。

